
平成 18 年度 平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT of The Hiratsuka Museum of Art 2006

April 2006-March 2007

■ 美術館の方針(館長草薙奈津子)

本方針は美術館の運営について館員の協力を得るために周知するものです。

I 全体(広範囲の人々を対象にする)

平塚市内の美術館、博物館、図書館が何らかの連携を取り合うことは大切である。しかし美術館は市民はもとより、より広範囲の人々も対象とする。

(報告、連絡、相談を行う)

各自、担当業務に専念して、積極的に取り組むことは当然であるが、上司には必ず事前・事後の報告、連絡、相談等を行うこと。

(観覧者増をはかる)

美術館の年間観覧者を将来的にはコンスタントに 10 万人にしたい。その為に毎年ほぼ 1 万人ずつ増やしたい。平塚市は 26 万人都市であるから市民だけを対象にしているだけでは目標達成が難しい。市民を大切にすることは第一であるが、市外からの観覧者も念頭に置かなければならない。

平塚市美術館は平塚市のイメージアップのために貢献すること。

II 展覧会 横浜、東京方面からも見に来たくなる、質の高い展覧会をやらなければいけない。2 年かけて展覧会のやり方を模索し、よい方向に向かっている現状がある。職員の皆様にはさらに努力してほしい。

III 教育プログラム

2004～5 年の 2 年間は展覧会中心に改革してきた。今年から 1 年もしくは 2 年くらいかけてワークショップを充実させたい。原則として平塚市民、および平塚市近隣住民を対象とするが、特定の人のみを対象としない。

IV 広報 これからは広報の時代といっても良い。担当者は勿論、皆で協力してより良い方向に向けていきたい。

目 次

I. 美術館主催事業（企画展）	5
企画展1「京都に花ひらく日本画 京都国立近代美術館所蔵品展」	
企画展2「開館15周年記念 世界の絵本画やってきた プラティスラヴァ世界絵本原画展」	
企画展3「開館15周年記念 日本画の巨匠 山本丘人展」	
美術館主催事業（特集展）	28
特集展1「新収蔵品展1」	特集展5「湘南と作家 森田勝と春陽会」
特集展2「七夕まつり共催 七夕展」	特集展6「平塚市美術館 新収蔵品展2」
特集展3「平塚市美術館所蔵名品展」	特集展7「湘南と作家 本荘赳」
特集展4「内田あぐり展 この世でいちばん美しい場所、あるいは一」	特集展8「所蔵品による屏風絵」
美術館主催事業（教育普及）	46
美術館主催事業（その他）	51
臨時行事1 ディズニー名作クラシックス「白雪姫」上映会	組 織 「平塚市美術盟友の会」活動
臨時行事2 美術館コンサート	
II. 美術館共催事業	52
第28回平塚市展／第11回美術館で聴く七夕コンサート	
III. 研究活動と作品広報活用	53
IV. 実習・研修等の受け入れ	53
V. 作品と資料の管理（保存・修復）	58
作品と資料の管理（収集・貸出）	59
VI. 美術館施設の管理	61
防災訓練・消防設備点検／施設貸出	
VII. 美術館定例会議	63
美術館協議会／美術品選定評議会	
VIII. 平成18年度 美術館施設利用者等の統計	64
IX. 平塚市美術館の沿革	68
X. 美術館の組織・運営	70

I 美術館主催事業(企画展)

■企画展について 美術館事業の中心の一つとして開催するもので、館独自のテーマによる自主企画展、関係機関との協力による共同巡回展などを開催し、優れた美術作品を紹介することを目的とする。

企画展1 京都に花ひらく日本画 京都国立近代美術館所蔵品展

会 期 2005 年 4 月 22 日(土)～2005 年 5 月 28 日(日)／開催日数 32 日間

主 催 平塚市美術館／京都国立近代美術館

観覧料 一般 700 円(560 円)／大高生 500 円(400 円) ※かつこ内は団体料金・小中学生無料・第 2、4 土曜日高校無料

担当者 郡司亜也子(当館学芸員)

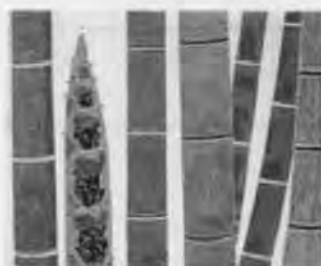
入場者 9,361 人

【企画趣旨】

京都は平安京遷都以来日本のみやことして豊かな文化をはぐくみ、明治時代に首都が東京に移っても日本文化の中心のひとつであり続けました。絵画の領域でも同様に、とくに江戸時代中期に円山応挙が現実に存在するものを写しとる、つまり写実による制作方法を提唱したことが近代日本画誕生へつなげる転換点となりました。

江戸時代末期から明治時代初期にかけて森寛斎、岸竹堂、幸野楳嶺らが内国勸業博覧会や絵画共進会を舞台に伝統改良を試み、明治時代中期に竹内栖鳳、山元春挙らが西洋絵画の制作態度や技法を研究、吸収して新しい自然主義的な作風を示しました。1907(明治 40)年に文部省美術展覧会(文展)が開かれると、都路華香、上村松園、菊池契月、西山翠嶂、橋本関雪、石崎光瑤などの京都作家が数多く活躍しました。また土田麦僊、榊原紫峰、小野竹喬、村上華岳らは自由な制作と発表の場をもとめて 1918(大正 7)年、国画創作協会を創立し、西洋・東洋絵画の研究と大胆な実験によって強い個性をもつ作品を発表。1919(大正 8)年創設の帝国美術院展(帝展)では堂本印象、福田平八郎、徳岡神泉らが熟成深化した作風を示しました。

1963 年に開館した京都国立近代美術館は、みやこ京都に位置する美術館として京都画壇を中心とする日本画作品の収集を特色のひとつとしており、そのコレクションは近代日本画の変遷をたどるうえで重要な位置を占めています。この展覧会では同館の所蔵作品から、竹内栖鳳、上村松園をはじめ京都画壇を代表する 35 人の画家の作品 68 点により、大胆かつ穏和着実な革新の動きを繰り返してきた京都日本画の名品の数々を紹介しました。



京都国立近代美術館
所蔵名品集[日本画]

所蔵名品集表紙

■関連印刷物

●図 録:『京都国立近代美術館所蔵名品集[日本画]』

○構成:テキスト:内山武夫「京都国立近代美術館の日本画コレクションについて」

○仕様:図版 219 点/284 頁/A4 変形版(26.3×19.2cm)

○資料:作家略歴、所蔵日本画総目録、京都国立近代美術館の概要

○編集等:京都国立近代美術館 制作:ニューカラー写真印刷株式会社 発行:光村推古書院株式会社

○価格:2400 円(税込み)※売切れ

●パンフレット:「京都に花ひらく日本画 鑑賞のしおり」

○構成:テキスト:郡司亜也子

○仕様:図版 24 点/32 頁/サイズ 21.0cm×14.8cm

○資料等:出品目録

○制作等:制作:艸藝社 発行:平塚市美術館

○価格:400 円(税込み)

■関連事業

1●講演会:テーマ「日本画にみる京都と東京」

○講師:草薙奈津子(当館館長)

○日時等:4 月 23 日(日)14:00～15:30、ミュージアムホールにて開催。

○参加者:約 130 人 (参加費無料)

2●レクチャー:「日本画の画材—岩絵具を中心に—」→詳細は《教育普及》参照

○講師:端山聡子(当館学芸員)

○日時等:4 月 29 日(祝)/5 月 4 日(祝)の 2 日間 各日 13:30～15:00、アトリエにて開催

○参加者:約 60 人 (参加費無料)

3●ギャラリー・トーク

○講師:郡司亜也子(当館学芸員)

○日時等:5 月 14 日(日)/5 月 20 日(土)の 2 日間 各日 14:00～15:00、展示室にて開催。

○参加者:約 120 人 (参加費無料)

4●こどもギャラリー・ツアー

○講師:郡司亜也子(当館学芸員)

○日時等:4 月 30 日(日)/5 月 5 日(祝)の 2 日間 各日 14:00～15:00、アトリエと展示室にて開催。

○参加者:約 30 人 (参加費無料)

5●「友の会」ギャラリー・トーク

○講師:郡司亜也子(当館学芸員)

○日時等:6 月 6 日(土) 14:00～15:00、展示室にて開催。

○参加者:約 30 人 (参加費無料)

6 ●団体むけレクチャー(計6回、6日間 参加者総数約 390 人)

○5月9日(火):「平塚市好会」

○5月18日(木):4 公民館合同「崇善公民館」「松原公民館」「富士見公民館」「大神公民館」

○5月23日(火):「神奈川県収入役会」

○5月24日(水):「婦人会」

○5月25日(木):4 公民館合同「岡崎公民館」「土屋公民館」「神田公民館」「藤沢市立明治公民館」

○5月28日(日):「平塚市立山城中学校」

■紹介記事・番組等

○3月26日(日)/27日(月):郡司亜也子「京都に花ひらく日本画(上)(下)」神奈川新聞

○4月1日(土):「京都に花ひらく日本画」 広報ひらつか、2006 年

○4月7日(金):「京都に花ひらく日本画」湘南ホームジャーナル第 1213 号

○4月28日(金):「京都近代美術館の名品 68 点を展示」 読売新聞

○5月1日(月):「京都画壇の名品集め 近代日本画の歩みとどる」神奈川新聞

○5月7日(日):「京都画壇の 68 点を展示」 朝日新聞

○5月24日(水):ニュース (テレビ神奈川)

■出品作品目録

番号	作家名	生没年	作品名	制作年	材質
1 伝統と近代化—花鳥—					
1	森寛斎	1814-1894	鷺鳥	明治時代	絹本彩色
2	岸竹堂	1826-1897	月鴉図	1896 年	絹本墨画
3	菊池芳文	1862-1918	桜花群鴉図	明治後期	絹本墨画淡彩
4	今尾景年	1845-1924	白桃鸚可図・牡丹小禽図	1905 年	絹本彩色
5	石崎光瑤	1884-1947	熱国妍春	1918 年	絹本彩色
6	村上華岳	1888-1939	鰻	1925 年	絹本彩色
7	土田麦僊	1887-1936	鶉	1926 年	絹本彩色
8	竹内栖鳳	1864-1942	秋興	1927 年	絹本彩色
9	榊原紫峰	1887-1971	白蓮図	1928 年頃	絹本彩色
10	橋本関雪	1883-1945	意馬心猿	1928 年	絹本彩色
11	西村五雲	1877-1938	淡光	1930 年	絹本彩色
12	村上華岳	1888-1939	墨牡丹之図	1930 年頃	絹本墨画
13	福田平八郎	1892-1974	花菖蒲	1934 年	絹本彩色
14	竹内栖鳳	1864-1942	若き家鴨	1937 年	紙本彩色
2 山水から風景へ					
15	田能村直入	1814-1907	春夏山水図	1901/1903 年	絹本彩色
16	川端玉章	1842-1913	山洞僻色	1902 年	紙本墨画
17	富岡鉄斎	1837-1924	富士遠望・寒霞溪図	1905 年	紙本彩色
18	山元春挙	1871-1933	春夏秋冬	1913 年	絹本彩色

19	都路華香	1871-1931	良夜	1912 年	紙本墨画
20	富田溪仙	1879-1936	鵜船	1912 年	紙本墨画
21	村上華岳	1888-1939	田植の頃	1912 年	絹本彩色
22	小野竹喬	1889-1979	郷土風景	1917 年	絹本彩色
23	富田溪仙	1879-1936	蓬莱仙境図	1921 年頃	絹本彩色
24	竹内栖鳳	1864-1942	南清風色	1926 年頃	絹本彩色
25	吹田草牧	1890-1983	醍醐寺泉庭	1928 年	絹本彩色
26	村上華岳	1888-1939	冬ばれの山	1934 年	紙本彩色
27	入江波光	1887-1948	釣舟(風浪漁舟)	1939 年	紙本墨画淡彩
28	宇田荻邨	1896-1980	林泉図	1941 年	絹本彩色
29	都路華香	1871-1931	夜の雨	大正初期	絹本墨画淡彩
3大正時代の人物表現					
30	甲斐庄楠音	1894-1978	露の乾ぬ間	1915 年	絹本彩色
31	甲斐庄楠音	1894-1978	桂川の場へ	1915 年	絹本彩色
32	甲斐庄楠音	1894-1978	横櫛	1916 年頃	絹本彩色
33	甲斐庄楠音	1894-1978	秋心	1917 年	絹本彩色
34	甲斐庄楠音	1894-1978	幻覚(踊る女)	1920 年頃	絹本彩色
35	甲斐庄楠音	1894-1978	舞ふ(舞う)	1921 年	絹本彩色
36	甲斐庄楠音	1894-1978	春宵(花びら)	1921 年頃	絹本彩色
37	甲斐庄楠音	1894-1978	裸婦	1921 年頃	絹本彩色
38	岡本神草	1894-1933	骨牌を持てる半裸女	1922 年	絹本彩色
39	岡本神草	1894-1933	拳を打てる三人の舞妓の習作	1920 年	絹本彩色
40	稲垣仲静	1897-1922	太夫	1919 年頃	絹本彩色
41	丸岡比呂史	1892-1966	母と子	1920 年	絹本彩色
42	木村斯光	1895-1976	花魁	1921 年	絹本彩色
43	梶原緋佐子	1896-1988	老妓	1922 年	絹本彩色
44	梶原緋佐子	1896-1988	曲芸師の少女	1922 年	絹本彩色
45	秦テルヲ	1887-1945	血の池	1921 年頃	麻布彩色
4美人画とその周辺					
46	菊池契月	1879-1955	夕至	1918 年	絹本彩色
47	西山翠嶂	1879-1958	秣	1920 年	絹本彩色
48	上村松園	1875-1949	舞仕度	1914 年	絹本彩色
49	中村大三郎	1898-1947	灯	1919 年頃	絹本彩色
50	堂本印象	1891-1975	訶梨帝母	1922 年	絹本彩色
51	菊池契月	1879-1955	朱唇	1931 年	絹本彩色
52	上村松園	1875-1949	虹を見る	1932 年	絹本彩色
53	三木翠山	1887-1957	維新の花	1940 年	絹本彩色
5戦後の日本画					

54	堂本印象	1891-1975	新聞	1950 年	紙本彩色
55	福田平八郎	1892-1974	花の習作	1961 年	紙本彩色
56	徳岡神泉	1896-1972	枯葉	1958 年	紙本彩色
57	徳岡神泉	1896-1972	蕪	1958 年	紙本彩色
58	徳岡神泉	1896-1972	富士	1965 年頃	紙本彩色
59-68	小野竹喬	1889-1979	奥の細道句抄絵	1976 年	
			田一枚植ゑて立ち去る柳かな		紙本彩色
			笠島はいづこさつきのぬかり道		紙本彩色
			まゆはきを俤にして紅粉の花		紙本彩色
			五月雨をあつめて早し最上川		紙本彩色
			涼しさやほの三か月の羽黒山		紙本彩色
			暑き日を海にいれたり最上川		紙本彩色
			象潟や雨に西施がねぶの花		紙本彩色
			荒海や佐渡に横たふ天の河		紙本彩色
			あかあかと日は難面もあきの風		紙本彩色
			浪の間や小貝にまじる萩の塵		紙本彩色

企画展 2 開館 15 周年記念 ブラティスラヴァ国際絵本原画展

副 題: 世界の絵本がやってきた/特別展示 チャベック兄弟、ラダ、トゥルンカ チェコ絵本の黄金時代

会 期 2006 年 8 月 12 日(土)～2006 年 10 月 1 日(日)／開催日数 44 日間
主 催 平塚市美術館/読売新聞本社/美術館連絡協議会/社団法人日本国際児童図書評議会(JBBY)
後 援 スロヴァキア共和国大使館/チェコ共和国大使館/日本チェコ協会/日本スロバキア協会/
スロヴァキア国際児童芸術館(BIBIANA)
協 賛 花王株式会社
協 力 株式会社アットアームズ/株式会社レンコーポレーション
観覧料 一般 700 円(560 円)／大高生 500 円(400 円) ※かつこ内は団体料金・小中学生無料・第 2、4 土曜日高校無料
担当者 土方明司(当館学芸担当長)
入場者 16,561 人

【企画趣旨】

ブラティスラヴァ世界絵本原画展は、1967 年、当時のチェコスロヴァキアで開催され、現在はスロヴァキアの首都ブラティスラヴァで 2 年ごとにおこなわれる世界最大規模の絵本原画展です。同展は各国のベテラン作家たちの作品が一同に展示され、その個性を競うものとして知られています。

今回は 2005 年秋に開かれた第 20 回展より、各国の受賞作品と日本から参加した 19 作家の作品を中心に紹介しまし

た。チェコ絵本および画家を体系的に紹介する初の展示となりました。さらに、ブラティスラヴァに出品された約 50 カ国の絵本や、飛び出す絵本の先駆者・チェコのクバシュタが手がけた作品、チェコスロヴァキア時代の古い玩具なども併せて紹介しました。



展覧会チラシ

■関連印刷物

- 図 録：
世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展
特別展示 チャベック兄弟、ラダ、トゥルンカ チェコ絵本の黄金時代

- 構 成:テキスト 土方明司「ブラティスラヴァ世界絵本原画展 2005」ブランカ・ステフリーコヴァー「チェコの子どもの本 1918-1945」江尻潔「チェコで紹介された日本昔話と邦訳されたチェコの子どもの本」
- 仕 様:第 1 部 51 点/第 2 部 48 点 ほか／134 頁／A4 変形版(29.8×18.4cm)
- 資 料:謝辞/出品作家/略歴
- 制作等:美術出版デザインセンター 発行:美術館連絡協議会
- 価 格:1800 円(税込み)※売切れ

■関連事業

- 1●親子向けギャラリー・トーク
 - 解 説:土方明司(当館学芸担当長)
 - 日時等:8 月 13 日(日)、8 月 27 日(日)、9 月 2 日(土) 14:00～15:00 展示室にて開催
 - 参加者:約 240 人 (参加費無料)
- 2●絵本の読み聞かせ
 - 語り手:平塚市中央図書館ボランティア・スタッフ
 - 日時等:会期中の毎週土曜日 14:00～14:30/8 月 18 日(金)、25 日(金)10:00～10:30
 - 参加者:約 560 人(参加費無料)

3●「チェコのアニメーション」上映

○日時等: 会期中、美術館のミュージアムホールにて開催

4●団体向けレクチャー(計 11 回、11 日間 参加者総数約 380 人)

○8 月 17 日(木) 「平塚市立神田公民館」

○8 月 19 日(土) 7 公民館合同「大野公民館」「八幡公民館」「四之宮公民館」「中原公民館」「松が丘公民館」「大原公民館」「南原公民館」

○8 月 22 日(火) キングタイガー子供会

○8 月 24 日(木) 4 公民館合同「崇善公民館」「松原公民館」「なでしこ公民館」「富士見公民館」

○9 月 5 日(火) 「南原保育園」

○9 月 6 日(水) 「大神保育園」

○9 月 7 日(木) 「神奈川県立大磯高等学校」

○9 月 13 日(水) 「神田公民館」「みずほ小学校」

○9 月 21 日(木) 「大神公民館」

○9 月 28 日(木) 「どんどこどん かさまおはなしのかい」

○9 月 29 日(金) 「よこすか文庫連絡会」「小田原市立矢作小学校」

5●皇后美智子さまがご来館

2006 年 9 月 20 日午後、皇后美智子さまは当館で開催中の「世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展」を鑑賞されました。

■紹介記事・番組等

○8 月 17 日(木)～19 日(土) 土方明司「ブラティスラヴァ世界絵本原画展(上、中、下)」読売新聞

○8 月 21 日(月) 「名作絵本や原画公開 平塚市美術館で企画展」神奈川新聞

○8 月 26 日(土) 「心ときめく絵本の国へようこそ」リビング湘南

○9 月 25 日(月) 「日本の 19 人の作品も紹介 ブラティスラヴァ世界絵本原画展」読売新聞

■出品作品目録

国名	作家名	原作者	書名	出版社	出版年
Iran	Ali Reza Goldouzian	Mohammad Reza Shams	Medade Siyah Va Medade Ghermez	Shabaviz	2004
Iran	Ali Reza Goldouzian	Sosan Taghdis	Jourabe Sourakh	Shabaviz	2003
Denmark	Lilian Broegger	Louis Jensen	Hundrede meget firkantede historier	Gyldendal	2005
South Korea	Byoung-HO Han	Han, Byoung Ho	I want to be a Bird	Characterplan	2004

Slovak Republic	L'uboslav Pal'o	L'uboslav Pal'o	1+1=2	Bohem Press	2003
Slovak Republic	L'uboslav Pal'o	L'uboslav Pal'o	Nicht erwischt !	Bohem Press	2005
Poland	Pawel Pawlak	Pawel Pawlak	Jajunciek	Muchomor	2005
France	Sara	Sara	Revolution	Seuil	2005
France	Sara	Sara	Á quai	Seuil	2003
Spain	Pablo Amargo	H.ch.Andersen	La princesa y el guisante	SM	2005
Belgium	Carll Cneut	Geert De Kockere	Dulle Griet	De Eenhoorn	2005
France	Alain Gauthier	Francois David	Est Elle Estelle	Motus	-
France	Alain Gauthier	Ane Ikhlef	Ma Peau D' Âne	Seuil Jeunesse	2002
Canada	Pierre Pratt	Pierre Pratt	Le Sour oué Zoé Zozota	Edition les 400 Coups	2005
Japan	酒井駒子	酒井駒子	金曜日の砂糖ちゃん	偕成社	2003
Japan	青山邦彦	青山邦彦	ドワーフじいさんのいえづくり	フレーベル館	2003
Japan	荒井良二	荒井良二	おばけのブルブル	講談社	2004
Japan	井上洋介	井上洋介	ぐるりかぜ	文溪堂	2004
Japan	宇野亜喜良	宇野亜喜良	りゅうのおくりもの	教育画劇	2004
Japan	おかねよしき	おかねよしき	よなかの さんぽ	ビリケン出版	2004
Japan	おぼまこと	おぼまこと	ひでちゃんとよばないで	小峰書店	2003
Japan	こみねゆら	宮川 ひろ	さくら子のたんじょう日	童心社	2004
Japan	瀬川康男	瀬川康男	ひなとてんぐ	童心社	2004
Japan	瀬川康男	瀬川康男	ひな	童心社	2004
Japan	長 新太	今江祥智	なんででんねん天満はん 天神祭	童心社	2003
Japan	どい かや	どい かや	チリとチリリ	アリス館	2003
Japan	なりたさとこ	なりたさとこ	かかしごん	BL 出版	2004
Japan	成田雅子	成田雅子	やくそく	講談社	2004
Japan	西村敏雄	西村敏雄	こどものとも年中向き バルバルさん	福音館書店	2003

Japan	長谷川義史	長谷川義史	いってきまーす どどこどこ	ひかりのくに	2003
Japan	はたこうしろう	はたこうしろう	なつのいちにち	偕成社	2004
Japan	降矢なな	内田麟太郎	ありがとうともだち	偕成社	2003
Japan	松岡達英	松岡達英	だんごむしと恐竜のレプトぼうや	小学館	2003
Japan	U. G. サトー	U. G. サトー	しまうまのさんぽ	福音館書店	2005

No	作家名	書名	制作年	技法・材質	原画サイズ(cm)
1	Jiri Trnka トウルンカ	Rikejte si se mnou こえにだしていってみましょう			
		"Deda v posteli a vlak"			22.0x15.5
		"Vrana v zime"			23.0x15.0
		"Deda s povidly"			22.0x15.0
		"Kluk s pistalkou"			14.5x16.5
		"Kluk na zdi a kulicky"			23.5x16.5
		"Kluk ve skole a vravec"			23.5x16.5
2	Cyril Bouda ボウダ	Chodske pohadky ホド地方の民話			
		(No.1)			29.0x23.0
		(No.2)			29.0x23.0
		(No.4)			28.0x22.5
		(No.7)			28.0x22.7
		(No.8)			28.0x23.3
		(No.10)			29.0x23.2
		(No.11)			29.0x23.0
		(No.12 表紙)			37.5x27.6
3	Josef Lada ラダ	tii		ペン・水彩	23 × 20
		Vodnic (水の精)	1942	リトグラフ	36 × 45
		Reklamni plakat Vsichni se ptaji,... (毛皮...)	1947	リトグラフ	37.5 × 57
		Plakat Velikonoce. (春)	1948	リトグラフ	92 × 65
		Plakat Vanove. (冬)	1948	リトグラフ	92 × 65
		'Maso a uzeniny opet levnejsi' (肉屋のポスター)	1949	リトグラフ	
		Narodni Pohadky Bozeny Nemcove (1926) より			

		Divotvorný mec		リトグラフ	23.5 × 19.0
		Pohádka o perníkové chaloupce		リトグラフ	
		Lesní zenka		リトグラフ	
		O nesytovi		リトグラフ	
		Sedmero krakavců		リトグラフ	
		O bacovi a sarkanu		リトグラフ	
		O smolickovi		リトグラフ	
		O jedmon starém psu a vlku		リトグラフ	
		黒ビール会社がくぼる絵ハガキ		4 点	各 14.5 × 10.5
		絵ハガキ1～4		20 点	14.5 × 9.5
4	Josef Capek チ ャベック	Zabavky dobrodružství かえるのぼうけん			
		1-01			30.0x21.7
		1-02			29.5x21.7
		1-03			29.5x21.4
		1-07			29.5x21.8
5	Josef Capek チャベック	Devatero pohádek 長い長いおまわりさんの話			
		5-03			29.7x22.0
		5-05			29.5x21.7
		5-06			29.2x22.0
		5-12			29.6x21.9
6	Ondrej Sekora セコラ	Trampoty brouka pytlíka ピトリークさんの災難	1939	インク、彩色	
		表紙裏（見返し）			52.0x74.0
		魚がコガネムシを捕まえる(p.20)			49.5x38.0
7	Ondrej Sekora セコラ	Malířské kousky brouka Pytlíka 画家ピトリークさんの作品	1940	インク、彩色	
		表紙(ジャケット)			52.0x38.0
		ピトリークさん capricorn beetle(和名不明)のポートレートを描く (P.20?)			52.0x38.0
		昆虫学者は彩色した虫を捕まえる (P.68?)			52.0x38.0

8	Karel Svolinsky スヴォリ ンスキー	Carovny svet 魔法の世界		
		L89		29.5 × 20.5
		L90		30.5 × 22.0
		L91		29.5 × 22.2
		L94		29.3 × 22.5
		L103		27.0 × 20.5
		L108		29.0 × 22.5

作家名	書名	*は初版年	寸法
Mikolas Ales アレシュ	Zvony a zvonky 鐘とつりがね草	*1894	
Adolf Kaspar カシュパル	Babicka おばあさん	*1855,1903	
Vojtech Preissig プライシフ	Broucci ほたるっこ	*1903	
Richard Lauda ラウダ	Radost malých 子どもの喜び		
Rudolf Adamek アダーメック	Obrazy z dávnověku 古代伝説		
Artus Scheiner シャイネル	Lidka リトウカ		
Otakar Stafl シュターフル	Potok 小川		
Rudolf Mates マテス	Hradky se zvířátky どうぶつの子どものおしゃべり		
Milada Maresová マレショヴァー	Selské pohádky お百姓の民話		
Josef Skupa スクパ	Kasperek a Spejbl na cestách 道中のカシュパーレックとスペイブル		
Zdeněk Březina ブリアン	Lovci mamutů マンモスの狩人	*1937	
Karel Müller ミュレル	Za národ a lidstvo celé 国家と人類のために		
J. Vodrážka ヴォドラーシュカ	Piráty 海賊		
Petr Dillinger ディリンゲル	Kytická kvítí おさない読者のための花束	*1942	

Josef Lada ラダ	Moje abeceda わたしの ABCD	* 1911	19 × 18.5
Josef Lada ラダ	Narodni rikadla エルベンのわらべうた		27 × 24
Josef Lada ラダ	Ladovy vesele uceбноce,savci 楽しい教科書・哺乳類		20 × 17.5
Josef Lada ラダ	Narodni pohadky 民話		29.5 × 23
Josef Lada ラダ	Pohadka o zlate musce コガネムシの話		29 × 24
Josef Lada ラダ	Svatba nasi kozy 僕らのヤギの結婚式		29 × 23
Josef Lada ラダ	Vesely krok pres cely rok 楽しい四季の歩み		28 × 23
Josef Lada ラダ	Ratata! sport a zvirata ラタタ！前進、スポーツと動物		22 × 27.5
Josef Lada ラダ	Mnoukacky nasi kocky うちのねこちゃんのにや あにやあばなし		22.5 × 27.5
Josef Lada ラダ	Ezopske bajky イソップ童話		30.5 × 24
Josef Lada ラダ	O Mikesivi Kocourek,ktery mluvil 黒猫ミケシュ		23 × 18
Josef Lada ラダ	O Mikesovi/casopis Radost 黒猫ミケシュ/掲載の雑誌「よろこび」		
Josef Lada ラダ	Pohadky naruby あべこべばなし		
Josef Lada ラダ	Bubaci a hastrmani おばけとかっぱ		23 × 17
Josef Lada ラダ	Cesky Honza チェコのホンザ		24.5 × 18.5
Josef Capek チャペック	Povidani o pejskovi a kocicce こいぬとこねこはゆかいなななかま	* 1929	
Josef Capek チャペック	Devatero pohadek ながいながいおいしやさんのはなし	* 1932	
Josef Capek チャペック	Zabakova dobrodruzstvi たのしい川辺		
Josef Capek チャペック	Edudant a Francimor まじよのむすこたち	* 1933	

Josef Capek チャペック	Poplach v Kovarske ulicce かじや横丁事件	* 1934	
Josef Capek チャペック	Modre nebe 青い空	* 1948	
Ondrej Sekora セコラ	Ferda mravenec ありのフェルダ	* 1936	
Ondrej Sekora セコラ	Ferda v mravenisti あり塚のフェルダ		
Ondrej Sekora セコラ	Ferdov slabikar フェルダ読本	* 1939	
Ondrej Sekora セコラ	Trampoty brouka pytlíka ピトリークさんの災難	* 1939	
Ondrej Sekora セコラ	Malířské kousky brouka Pytlíka 画家ピトリークさんの作品		
Ondrej Sekora セコラ	Kronika města Kocourkova とんでもない町の年代記		
Karel Svoboda スヴォリンスキー	Nasobice v malé chvíli 一瞬の九九	* 1936	
Karel Svoboda スヴォリンスキー	Oběť zrůdnosti 献身的な リスのズルゼチカ	* 1941	
Karel Svoboda スヴォリンスキー	Kouzelná lucerna 魔法のランタン	* 1943	
Karel Svoboda スヴォリンスキー	Český rok チェコの四季・春編		
Karel Svoboda スヴォリンスキー	Čarodějův svět 魔法の世界	* 1949	
Cyril Bouda ボウダ	Chodské pohádky ホド地方の民話	* 1940	
Cyril Bouda ボウダ	Staré pověsti a legendy 古代伝承と伝説		
Cyril Bouda ボウダ	Gulliverovy cesty ガリヴァー旅行記	* 1950	
Cyril Bouda ボウダ	Andersen, pohádky a povídky アンデルセン童話 (2 分冊)		
Adolf Hoffmeister ホフマイステル	Gulliverovy cesty ガリヴァー旅行記		
Karel Capek チャペック	Dasenka ダーシェンカ または子犬の生活	* 1933	
Toyen トワイエン	Nas svět わたしたちの世界	* 1934	

Zdenek Rossman ロスマン	Kapka vody 水のしずく	* 1935	
Toyen トワイエン	Anicka skritek a slameny Hubert 小人アニチカと麦藁のフベルト		
J.Rothke a V.Schlosser ロスケ	Pustte basu do rozhlasu ラジオでバスを聞こうよ	* 1937	
Jiri Trnka トウルンカ	Misa Kulicka v rodnem lese ふるさとの森のミーシャ・クリチカ		
Jiri Trnka トウルンカ	Zuzana objevuje svet ズザナの世界発見	* 1940	
Jiri Trnka トウルンカ	Karavana キャラバン隊	* 1941	
Jiri Trnka トウルンカ	Broucci ほたるっこ	* 1941	
Jiri Trnka トウルンカ	Kormidelnik Vlnovsky 船乗りヴルノフスキー		
Jiri Trnka トウルンカ	Rikejte si se mnou こえにだしていってみましょう	* 1943	
Antonin Strnadel ストウルナデル	Vojacek Hubacek 兵士フバーチェク		
Antonin Strnadel ストウルナデル	Ze starych letopisu チェコ古代伝説		
Adolf Zabransky ザーブランスキー	Sladek detem スラーデックから子どもたちへ	* 1943	
Adolf Zabransky ザーブランスキー	Kdyz se certi rojili 悪魔が飛べば	* 1944	
Adolf Zabransky ザーブランスキー	Raj domova 楽しい我が家		
Frantisek Tichy チッヒー	Robinson Crusoe ロビンソン・クルーソー	* 1941	
Josef Novak ノヴァーク	Dobrodruzsvi Marca Pola マルコ・ポーロの冒険	* 1942	
(Griffith)	Japonske pohadky 日本昔話		
Petr Dillinger ディリッゲル	Svetem pohadek 童話の世界		
Hloucha、 写真と木版	Pohadky japonskych deti 日本の子どもの昔話		
Valentova, (Hloucha)	Pohadky slunceho Vychodu 日いつる国のお話		

Saloun,(Havlasa)	Japonska pohadka o dvou dedcich こぶとりじいさん？		
(Eliasova)	Japonske pohadky - mukashibanashi 日本昔話		
Jaroslav Serych シェリフ	Prodany sen 売られた夢		
Eva Bednarova ベドナージョヴァー	Pribehy o soudci Ookovi 大岡裁き		
Jiri Behounek ビエホウネック	Demonova fletna 悪魔の笛		

No	作家名	書名	出版社	出版年
79	クヴァスタ	七わのからす	岩崎書店	1969
80	クヴァスタ	ねむりひめ	岩崎書店	1968
81	クヴァスタ	どうぶつえん	岩崎書店	1971
82	クヴァスタ	月ロケット	岩崎書店	1971
83	J. Pavlin, G.Šeda	ほらふきだんしゃく	国際情報社	1976
84	J. Pavlin	きしゃ	？	1987
85	Gustav.Šeda	ふね	？	1987
86	ユリー・シバルチーク	火はどうしてもえるの	小峰書店	1975
87	チャベック	長い長いお医者さんの話	岩波書店	1952
88	チャベック	郵便配達の話 (世界名作選(二)収録)	岩波書店	1936
89	チャベック	王女様と小猫の話 (チャベック童話集)	第一書房	1940
90	ヨゼフ・ラダ	黒ねこミケシュのぼうけん	岩波書店	1967
91	チャベック	だあしゑんか 仔犬の生ひ立ち	昭和書房	1934
92	チャベック	犬と妖精の話・小鳥と天使の卵の話	新潮社	1940
93		おもちゃ(ジオラマ)		
94		おもちゃ(おままごとセット 家具と小さな赤ん坊)		

95		おもちゃ(おままごとセット 葦の家具と大きな赤ん坊)		
96		おもちゃ(玩具類 操り人形、トウモロコシ人形、木馬)		
No	作家名	書名	出版社	出版年
1	Josef Lada	Svet zvirat 動物の世界		
2	Josef Lada	Ladovy vesele ucebnice 楽しい教科書		
3	Josef Capek	Povidani o pejskovia kocicce こいぬとこねこは愉快的仲間		
4	Karel Capek	Dasenka ダーシェンカ		
5	Jiri Trnka	Broucci ほたるっこ		

No	作家名	原作者	書名	出版年
1	Eleonora Arroyo	Graciela Repun	El Principe Medafiacca	2005
2	Valeria Cis	Stella Smania	Ay Renata!	2004
3	Isabelle Vandenabeele	Edward Van De Vendel	Rood Rood Roodkapje	2003
4	Pavel Tatarnikov	Richard Wagner (opera libretto motive)	The Rhinegold	2003
5	Maria Eugenia Longo	Arthur Nestrovski	Coisas Que Eu Queria Ser	2003
6	Louiza Kaimaki	Rachel Davey,Toby Maclin	O Mnen Annazei Popesia	2003
7	Renáta Fučíková		Madame Butterfly	2004
8	Martin Raudenský	Martin Raudenský	Pohádka z meruňkového sadu	2003
9	Wang Dongbin	He Rong	Learning Idioms with Pictures	2002
10	Thomas Balle	Rachel Røst	Da musene flyttede samme vej som guldet	2005
11	Piret Mildeberg	Piret Mildeberg	Ervin-Kõikide Lemmik	2004
12	Virpi Talvitie	Hannele Huovi	Matka Joulun Taloon	2001
13	Perret Delphine	Perret Delphine	Le peuple des Sardines	2004

14	Nicholas Andrikopoulos	Argiro Kokoreli	O Ai Vasilis Pai Ston Polemo	2004
15	Coby Hol	Coby Hol	Toe maar,Ukkie	2004
16	Svjetlan Junaković	Josif Brodski	Chiristmas Poems	2003
17	Amin Hasanzadeh	Mahdokht Kashkouli	Douste Mardome Shahr	2004
18	Gudrun Hannesoottir	Axel Wallengren	Sagan um Pomeripossu med langa nefid	2001
19	Piet Grobler	Maria Hendricks	Makwelane and the Crocodile	2004
20	Yoon-Duck Kwon	Traditional folk songs	There Dangles a Spider	2003
21	Céline Malépart	Suzanne Côté	La Foret des Gorets	2004
22	Sigutė Chlebinskaitė	Kazys Jakubenas	Kas kiemely daros	2003
23	Anita Paegle	Jānis Baltvilks	Wolves collect the Wood	2003
24	Atanas Botev	Grozdana Oluic	Fables	2005
25	Katalin Szegedi	Grimm Rrothers	Rapunzel	2005
26	Gerardo Suzán	Gabriela Velasquez	Raices	2005
27	Victoria Rata	Oana Lazar	Inventatorul De Cuvinte	2004
28	Bolormaa Baa San Suren	Bolormaa B.	The Legend of Wive's Hair	2004
29	Isabel Pin	Isabel Pin	Papa Sumo	2005
30	Malgorzata Piotrowska	Malgorzata Piotrowska	Little Guinea-Pig and the Big Catastrophe in a Garden	2005
31	Gavin Bishop	Gavin Bishop	Taming the Sun	2004
32	Grazyna Lange	Marcin Bryk Czyński	Bialy niediwiedź,czarna krowa	2004
33	André Letria	José Jorge Letria	Versos para os pais le rem aos fichos em noites de luar	2003
34	Angelika Kaufmann	Angelika Kaufmann	Du und Ich Ich und Du	2004
35	Natalia Demidova	A.P.Čechov	Kaštanka	2004
36	Jean-Yves Masengo	Uwimana Immaculee	Ubutungutungu	2004

37	Dušan Kállay, Kamila Štanclová	H.ch.Andersen	Pohádky	2005
38	Daša Simčič	Boštjan Soklič	Čira čara	2005
39	Earl Lewis	Richard Michelson	Happy Feet	2005
40	Nikola Vítkovič	Dejan Donović	A Great Idea	2004
41	Reme Tomás	J.J.Soler Navarro	Pols Lunar	2003
42	Catherine Louis	Catherine Louis	Mon imagier Chinois	2004
43	Octavia Monaco	Giuseppe Pontremoli	Ballata pertutto l'anno ed altri canti	2004
44	Pornnet Arammongkolvichai	Auntie Owl	Butterfly	2004
45	Nazan Erkmen	Nazir Senturk	Kirmizi Karincanin Anilari	2005
46	Gerald Espinoza	Gerald Espinosa	Gallo Gali Galo	2004

企画展3 開館 15 周年記念 日本画の巨匠 山本丘人展

会 期 2006 年 10 月 14 日(土)～2006 年 11 月 26 日(日) 開催日数 38 日間
主 催 平塚市美術館/日本経済新聞社
協 力 資生堂
観覧料 一般 700 円(560 円)／大高生 500 円(400 円) ※かっこ内は団体料金・小中学生無料・第 2、4 土曜日高校無料
担当者 勝山滋(当館学芸員)
入場者 18, 105 人

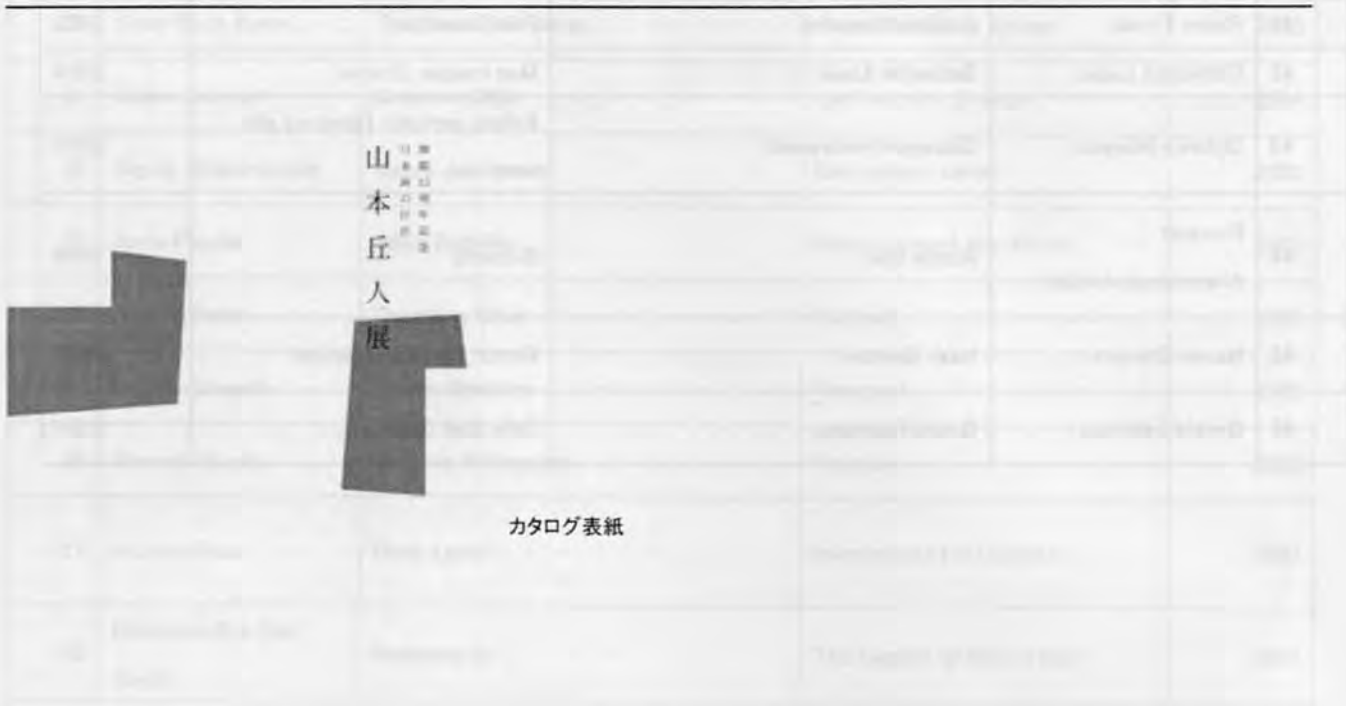
【企画趣旨】

「絵は人なり」一丘人(きゅうじん)が、自分の作品に表したのは、風景を目にした時の感動や、自らが感じた季節観、自らの人生観でした。作品には、権威を嫌い、何ものにも媚びない丘人の強い人間性が感じられ心を打ちます。
山本丘人は 1900 年東京の生れ。東京美術学校在学中、校内コンクールに出品した《娘之坐像》が松岡映丘(まつおかえいきゅう)に認められ師事。1936 年小金井に転居してからは武蔵野周辺の繊細な叙情的風景に画才を発揮します。

戦後、日本が一変すると、旧弊つづく日展を離脱、新しい日本画を求める革新画派のリーダーとして創造美術（現・創画会）を創立。雄大な山容や荒々しい日本海に取材し、造形的な量感表現をめざします。絵具を焼く、また金、銀箔を多用し、さらに削り、重ねるといった技術もまた、作家の感動を的確に表現しています。

1960 年には大磯に転居、強靱な意志の発露である力強い作品を発表しますが、次第に「真実の心象風景」を追い求める幽玄優美で詩情豊かな作風へと移行します。1977 年、在野にあって文化勲章を受章。晩年はさらに象徴性を帯び、夢のなかで遊ぶような画境に到達しています。

この展覧会では、東京圏での本格的回顧展としては 12 年ぶりに、過去最大の 92 点を出品。映丘に認められるきっかけとなった第一作《娘之坐像》（新発見）、長らく行方不明であった戦前の代表作《村道》をはじめ、初期から晩年までに至る代表作・新発見作品などを一堂に展覧し、山本丘人芸術の歩みを紹介しました。



カタログ表紙

■関連印刷物

●図 録：『開館 15 周年記念 日本画の巨匠 山本丘人展』

○構 成：テキスト：草薙奈津子「山本丘人—自我をまさぐる近代人・永遠にまよえる現代人」/勝山滋「丘人の渡欧—画家はなにをみたのか—」/高山辰雄「丘人先生の思い出」/稗田一穂「丘人先生を想う」/毛利武彦「丘人先生の深淵」
川崎鈴彦「丘人先生が助教授として来られた頃の美校の思い出」

○仕 様：図版 92 点／140 頁／24.6×26.7cm

○資 料：挨拶/山本丘人の落款/印章/略年譜/文献目録/出品目録/謝辞

○制作等：光村印刷株式会社 発行 平塚市美術館/日本経済新聞社

○価 格：2200 円（税込み）※売切れ

■関連事業

1●特別講演会：テーマ「丘人先生の思い出—小泉淳作氏にきく」

○講 師：草薙奈津子（当館館長）

○日時等：10 月 21 日（土）14:00～15:30、ミュージアムホールにて開催。

○参加者：約 90 人（参加費無料）

2●レクチャー:「日本画の画材—岩絵具を中心に—」→詳細は《教育普及》参照

○講 師:端山聡子(当館学芸員)

○日時等:11月12日(日) 13:30~15:00、アトリエにて開催。

○参加者:約90人(参加費無料)

3●ギャラリー・トーク

○講 師:勝山滋(当館学芸員)

○日時等:10月15日(日)、10月29日(日)、11月23日(■)の3日間 各日14:00~15:00、展示室にて開催。

○参加者:約170人(参加費無料)

4●こどもギャラリー・ツアー

○講 師:勝山滋(当館学芸員)

○日時等:11月18日(土)10:30~11:15、展示室にて開催。

○参加者:約30人(参加費無料)

5●「友の会」ギャラリー・トーク

○講 師:勝山滋(当館学芸員)

○日時等:11月4日(土) 14:00~15:00、展示室にて開催。

○参加者:約40人(参加費無料)

6●団体むけレクチャー(計6回、6日間 参加者約390人)

○10月26日(木):「四宮公民館」

○11月9日(木):「崇善公民館」「松原公民館」「富士見公民館」「なでしこ公民館」「平塚市立神田小学校」

○11月10日(金):「小田原市小学校教頭会」「平塚市立豊田小学校」

○11月12日(日):「多摩美術大学(博物館学Ⅰ受講生)」

○11月16日(木):「平塚市立岡崎公民館」

○11月22日(水):「秦野公衛会」

7●市民サービス

○展覧会期間中、開館時間を夜7時まで延長。

○会期中の8月12日(土)/8月19日(土)/8月26日(土)/9月2日(土)の各日13:00~17:00、美術館アトリエにおいて、観覧者が伴った児童(3~5歳児)を対象にキッズルームを開設、利用者1名。

■紹介記事・番組等

- 9月16日(土) 「力強く華麗な作風の日本画 山本丘人展—日本画の巨匠」日本経済新聞
- 10月13日(金) 「最大級の回顧展が平塚で！=山本丘人展=市美術館で明日から」湘南ホームジャーナル
- 10月17日(火) 丸山孝「叙情的人生の軌跡 大磯ゆかりの日本画家山本丘人の展示会」神奈川新聞
- 10月25日(水) 「いち押し 山本丘人展」毎日新聞
- 10月31日(火) 竹田博志「『未知』に通じる道へと誘う 山本丘人展」日本経済新聞
- 11月1日(水) 勝山滋「言葉で理解できない『真実の心象風景』」新美術新聞、第1103号
- 11月2日(木) 杉江隆「美術散歩“真実の心象風景”を求めた戦後日本画壇のリーダー「山本丘人展」」日経ビジネスオンライン
- 11月5日(日) 「雄渾と幽玄と～山本丘人 日本画革新の軌跡～」新日曜美術館、NHK 教育
- 11月10日(金) 「戦後、日本画の窮地に立ち向かい、新たな芸術を求め続けた巨匠・山本丘人の軌跡」NHKウィークリーステラ
- 11月10日(金) 西田健作「一展逸点 村道 心意気映す？清らかさ」朝日新聞
- 11月12日(日) 池川徹雄「山本丘人展 内田あぐり展「日本画」の在り方探る」新かながわ新聞
- 11月20日(月) 瀧悌三「10月の展覧会から」美じょん新報、第86号

■出品作品目録

作品名	制作年	寸法	素材材質
1 娘之坐像	1920	116.0×65.0	絹本彩色・軸
2 婦女坐像(青梅)	1921	122.7×82.5	絹本彩色・額
3 少女	1920-24 頃	115.0×77.5	絹本彩色・軸
4 白菊	1924	160.0×108.1	絹本彩色・額
5 公園の初夏	1928	169.0×175.0	紙本彩色・額(2曲1隻)
6 五月雨	1929	49.6×71.7	絹本彩色・額
7 河岸風景	1929	68.0×80.0	紙本彩色・額
8 不忍池	1930	199.6×166.3	絹本彩色・額
9 広小路夕景	1932	51.5×62.0	紙本彩色・額
10 はつなつ	1932	133.0×42.0	絹本彩色・額
11 高原風景	1932	51.3×73	絹本彩色・額
12 青い海	1932	211.0×137.0	絹本彩色・額
13 福原愛子像	1933	48.5×67.2	絹本彩色・額
14 切通し	1935	51.0×73.0	絹本彩色・額
15 海の微風	1936	151.5×151.5	絹本彩色・額
16 紅葉の季	1938	133.2×67.3	紙本彩色・軸
17 村道	1939	220×167	絹本彩色・額
18 春庭	1940	148.0×147.0	絹本彩色・額
19 山麓	1943	148.5×72.7	絹本彩色・軸
20 月夜	1944	46.0×57.4	絹本彩色・額
21 田舎道	1944	57.5×51.0	絹本彩色・額

22	望流	1946	144.4×71.9	絹本彩色・軸
23	残雪	1948	144.5×71.8	絹本彩色・軸
24	草上の秋	1949	161.7×258.8	絹本彩色・屏風(4曲1隻)
25	湖上嶺(山湖嶺)	1951	168.5×372.0	絹本彩色・屏風(6曲1隻)
26	断層(潤声)	1953	185.0×185.0	絹本彩色・屏風(2曲1隻)
27	奔流	1954	161.5×223.0	絹本彩色・屏風(4曲1隻)
28	潮	1954	90.9×60.6	絹本彩色・額
29	北濤	1955	123.5×156	絹本彩色・額
30	濤と雪	1955	49.6×72.1	絹本彩色・額
31	晩雪	1956	111.1×186.0	絹本彩色・額
32	雪に立つ樹	1957	53.5×65.5	紙本彩色・額
33	曇れる火山	1958	97.5×147.5	絹本彩色・額
34	岩壁	1958	90.5×60.3	紙本彩色・額
35	晩雪原	1958	167.7×341.6	絹本彩色屏風(6曲1隻)
36	真昼の火山	1959	63.6×104.8	紙本彩色・額
37	風景(嵐の後)	1959	93.5×142.5	紙本彩色・額
38	山の古城	1960	72.7×50.0	紙本彩色・額
39	夕焼け山水	1961	177.0×140.5	絹本彩色・額
40	月夜の噴煙	1962	168.8×174.0	絹本彩色・額
41	満月夜	1963	94.8×57.5	絹本彩色・額
42	入る日(異郷落日)	1963	144.8×217.9	絹本彩色・額
43	雲のある山河	1964	168.5×372.0	絹本彩色屏風(6曲1隻)
44	人の住む城跡	1964	83.0×48.5	絹本彩色・額
45	海巖	1965	116.7×90.9	紙本彩色・額
46	暮春雪	1966	102.0×58.0	絹本彩色・額
47	晴夜	1967	58.0×102.0	紙本彩色・額
48	来り去る時雨	1967	153.5×122.0	絹本彩色・額
49	晩い雪景	1968	121.0×152.0	紙本彩色・額
50	絶境	1969	153.0×113.3	紙本彩色・額
51	空に咲く	1970	50.0×72.7	紙本彩色・額
52	夏野花	1970	100.0×100.0	紙本彩色・額
53	濤と華	1970	55.0×100.0	紙本彩色・額
54	狭霧野	1970	134.0×228.0	紙本彩色・屏風(4曲1隻)
55	風渡る	1970	55.0×100.6	紙本彩色・額
56	星空の牡丹	1971	73.0×53.0	紙本彩色・額
57	夏の孤情	1971	85.0×158.0	紙本彩色・額
58	冬を越す樹	1971	55.0×80.0	紙本彩色・額
59	鳥と風月	1972	131.0×231.7	紙本彩色・額
60	葉かげの陽	1972	55.3×85.4	紙本彩色・額
61	初雪峠	1972	55.2×85.5	紙本彩色・額

62	高麗山夕影	1973	55.3×91.7	紙本彩色・額
63	歳月の影	1973	73.5×61.7	紙本彩色・額
64	降り積る	1973	49.4×60.6	紙本彩色・額
65	流水のうた	1973	174.2×144.2	紙本彩色・額
66	山の上は花ざかり	1974	68.0×71.0	紙本彩色・額
67	流転之詩	1974	129.0×229.5	紙本彩色・額(4曲1隻)
68	天上月華	1974	92.7×62.4	紙本彩色・額
69	往く路	1975	91.5×64.0	紙本彩色・額
70	路上の天使	1975	100.0×136.0	紙本彩色・額(2曲1隻)
71	地上風韻	1975	136.5×231.5	紙本彩色・屏風(4曲1隻)
72	残夢抄	1976	65.1×90.9	紙本彩色・額(2曲1隻)
73	壁夢	1976	132.5×229.5	紙本彩色・額(4曲1隻)
74	漂壁	1976	88.5×127.8	紙本彩色・額(2曲1隻)
75	季節風	1977	各 126.5×60.7	紙本彩色・軸(4幅対)
76	舊い軌跡	1977	85.0×66.9	絹本彩色・額
77	幻雪	1978	130.0×273.0	紙本彩色・屏風(6曲1隻)
78	夏渡る時	1979	130.0×274.0	紙本彩色・額(6曲1隻)
79	吹き抜ける雨晴	1980	79.3×145.5	紙本彩色・額
80	銀色の歳月	1980	84.0×152.0	紙本彩色・額
81	雪月夜	1981	133.0×230.0	紙本彩色・額(4曲1隻屏)
82	暮春吹き寄せ	1981	65.2×50.0	紙本彩色・額
83	春過ぎて海	1982	45.8×91.8	紙本彩色・額
84	正月元旦	1982	46.9×92.2	紙本彩色・額
85	残春	1982	91.8×195.3	紙本彩色・パネル(3面)
86	風立ちぬ	1982	84.0×153.0	紙本彩色・額(4曲1隻)
87	晩花	1982	53.5×46.0	絹本彩色・額
88	燈影	1983	91.8×45.9	紙本彩色・額
89	山河望郷	1983	46.0×92.0	紙本彩色・額
90	冬に翳る岸辺	1983	46.0×91.5	紙本彩色・額
91	海道の径	1984	145.4×97.0	紙本彩色・額
92	絶筆・未完	1983～5年	84.0×153.0	紙本彩色・額(4曲1隻)

I . 美術館主催事業(特集展)

■特集展について 平成 17 年度より当館所蔵品による「常設展」を廃し、テーマ性をもった展示「特集展」を企画していくことになった。所蔵作品の展示を中心とするが、加えて小規模ながら美術館が注目する作家の個展も開催する。

開館日数	一般			高校・大学生			小・中学生	未就学	合計
	観覧者	有料者	無料者	観覧者	有料者	無料者	観覧者	観覧者	
309 日間	37,086	21,292	15,794	1,087	948	139	4,423	962	43,558

特集展 1 新収蔵品展 1

会 期	2006 年 4 月 1 日(土)～2006 年 5 月 28 日(日) 開催日数 50 日間								
主 催	平塚市美術館								
協 力	資生堂								
観覧料	一般 200 円(160 円)／大高生 100 円(80 円) ※かつこ内は団体料金・小中学生無料・第 2、4 土曜日高校無料								
担当者	森岩恒明(当館学芸員)								
入場者	9, 050 人								

【企画趣旨】

平塚市美術館では「湘南の美術・光」をテーマに活動を続け、今年度、開館 15 周年をむかえました。記念の年最初の所蔵品展となるこの展覧会では、2004・2005 年度に新たに収蔵された作品から、日本画と立体造形作品を中心に 56 点を展示しました。

日本画では、平塚にアトリエをかまえて制作を続ける工藤甲人の作品 10 点と麻田鷹司、益井三重子などの作品、立体造形では林辺正子の小品 13 点、油彩画では平塚在住の江添栄一郎、藤沢市辻堂で活動している田澤茂ほかの作品、また現代の版画作品として飯室哲也らのグループが発表した版画集の作品など、個々の作家が試みた様々な技法と表現を紹介しました。



工藤甲人「春を呼ぶ」

■関連事業

●団体向け研修

○日時等: 4 月 6 日(日) 湘南ステーションビル平塚ラスカ 参加者 20 人

■出品作品目録

作家名	生没年	作品名	制作年	材質	所蔵
麻田 鷹司	1928-1987	御室桜	1970 年	彩色・紙	当館寄託
麻田 鷹司	1928-1987	溪	1973 年頃	彩色・紙	当館寄託
麻田 鷹司	1928-1987	瀑	1976 年	彩色・紙	当館寄託
麻田 鷹司	1928-1987	北山	1979 年	彩色・紙	当館寄託
麻田 鷹司	1928-1987	養老飛瀑	1985 年	彩色・紙	当館寄託
飯室 哲也	1947-	Memory	1996 年	木版・手彩色・紙	当館蔵
石井 礼子	1974-	忙しい日 I	2002 年	墨・紙	当館蔵
石川 馨	1921-2000	燈火	1995 年	彩色・紙	当館蔵
石川 馨	1921-2000	流燈	1996 年	彩色・紙	当館蔵
石村 実	1960-	MOONSHADOW	1999 年	エッチング・紙(千代紙)	当館蔵
稲 憲一郎	1947-	oval in blue	1999 年	木版・紙	当館蔵
鶴澤 明民	1946-	生成(余白に向って)	2000 年	ドローイング・紙	当館蔵
江添 栄一郎	1930-	砂丘上の船・平塚の海辺	1952 年	油彩・キャンバス	当館蔵
江添 栄一郎	1930-	砂丘と網と魚	1953 年	油彩・キャンバス	当館蔵
江添 栄一郎	1930-	造船所	1953 年	油彩・キャンバス	当館蔵
加藤 富也	1955-	「記憶色」Ⅲ四条大宮 030401 赤	2003 年	写真、編集、加筆、プリント・紙	当館蔵
堅山 南風	1887-1980	養老孝子図	明治末期-大正初期	彩色・絹	当館寄託
川端 龍子	1885-1966	筏	1937 年	彩色・絹	当館寄託
橋田 尚之	1947-	head	2000 年	木版・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	横たわる聖樹	1957 年	彩色・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	風鳥	1961 年	彩色・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	このはづく	1961 年	彩色・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	須弥山	1962 年	彩色・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	広野	1964 年	彩色・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	木の葉	1964 年	彩色・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	巢のある丘	1965 年	彩色・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	蝶の館	1967 年	彩色・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	春を呼ぶ	1971 年	彩色・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	木の葉鳥	1973 年	彩色・紙	当館蔵
工藤 甲人	1915-	遅心	1975 年	彩色・紙	当館寄託
佐野 陽一	1970-	postcard, Hong Kong June2, 1995	1999 年	写真、オフセット・紙	当館蔵
白井 嘉尚	1953-	マルト一の歌— I	1997 年	リノリウム版・紙	当館蔵
田澤 茂	1925-	魍魎魍魎・銀	1999 年	油彩・キャンバス	当館蔵

長 重之	1936-	Pick Pocket	2000 年	木版、墨、インク・紙	当館蔵
富岡 鉄斎	1836-1924	人物図	不詳	淡彩・紙	当館寄託
服部 賢司	1945-	無題	2003 年	クレヨン・紙	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	レリーフⅠ	2002 年	鉛、木	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	レリーフⅡ	2002 年	鉛、木	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	レリーフⅢ	2002 年	鉛、木	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	レリーフⅣ	2002 年	石膏、木	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	The father of the mother of pearls	2000 年	貝殻、粘土、木	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	Egg Box	2000 年	卵殻、粘土、木	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	Jardin Clos 2	1999 年	石膏粘土、	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	Jardin Clos 4	1999 年	石膏粘土、鉛	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	Transudation 浸出	1994 年	和紙、鉄	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	Transillumination 透照	1994 年	ナイロン糸、鉄	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	備忘録 Memorabilia	1994 年	粘土、胡粉	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	楕円の断続	2000 年	鉄	当館蔵
林辺 正子	1940-2004	楕円の回転体	1996 年	鉄	当館蔵
堀川 紀夫	1946-	EDGE '97 JAN A	1997 年	アルミ版、エッチング・紙	当館蔵
益井 三重子	1910-	ラソちゃん	1953 年	彩色・紙	当館蔵
益井 三重子	1910-	盛花	不詳	彩色・紙	当館蔵
益井 三重子	1910-	果物(ブドウ)	不詳	彩色・紙	当館蔵
宮下 圭介	1944-	Under the White	2003 年	シルクスクリーン・紙	当館蔵
保田 春彦	1930-	辺境の三景	2002 年	ブロンズ	当館蔵
山崎 宏	1965-	融和—033	2003 年	顔彩・紙	当館蔵

新収蔵品展Ⅱのお知らせ:12月5日より今回紹介できなかった2004・2005年度収蔵作品から選んで展示いたします。

特集展2 七夕まつり共催 七夕展

会 期 2006 年 4 月 1 日(土)～2006 年 5 月 28 日(日) 開催日数 50 日間
主 催 平塚市美術館
観覧料 一般 200 円(160 円)／大高生 100 円(80 円) ※かつこ内は団体料金・小中学生無料・第 2、4 土曜日高校無料
担当者 森岩恒明(当館学芸員)
入場者 3,472 人

【企画趣旨】

湘南ひらつか七夕まつりの期間にあわせて、七夕にちなんだ鍋木清方《七夕》、酒井抱一《乞巧奠図(きっこうでんず)》(財団法人大倉文化財団 大倉集古館蔵)を中心に、写真・解説パネルを交えて、七夕のいわれや伝統、各地の七夕の伝説や風習、七夕の歴史と祝い方の変遷などを紹介しました。また、当館で所蔵する夏の風物を描いた日本画・洋画作品約 30 点(岸田劉生《永日小品》、今村紫紅《瀧》、中村琢二《奥大井》、松本節《ひまわりと雲》など)で夏の雰囲気演出しました。



七夕展チラシ

■関連印刷物

- 仕 様: 図版 4 点／4 頁／A3 二つ折り
- 制 作: 光村印刷株式会社

■関連事業

- 1●七夕を知る/子ども七夕茶会 →詳細は《教育普及》参照
 - 講 師: 森岩恒明(当館学芸員)
 - 日時等: 7 月 8 日(土)13:00～16:00/7 月 9 日(日)10:30～13:00 2日間 アトリエ、展示室、前庭にて実施。
 - 参加者: 約 30 人 (参加費無料)
- 2●団体向けレクチャー&体験プログラム(計6回、6日間 参加者総数約 130 人)
 - 6 月 13 日(火) 茅ヶ崎市立香川公民館
 - 6 月 22 日(木) アメリカ・ローレンス市

- 7月6日(木) 高山市(友好都市市民団体)
- 7月7日(金) 湘南学園中学校
- 7月12日(水) 平塚適応教室
- 7月26日(水) 伊勢原市小中学校

■紹介記事・番組等

- 6月20日(火) 「夏をテーマに絵画展」神奈川新聞
- 7月8日(土) 「七夕展」リビング平塚

■出品作品目録

作家名	生没年	作品名	制作年	材質	所蔵
鍋木 清方	1878-1972	七夕 *	1929 年	絹本着色	大倉文化財団・大倉集古館蔵
酒井 抱一	1761-1828	乞巧奠図(きっこうでんず) *	1827 年	絹本着色	大倉文化財団・大倉集古館蔵
安田 毅彦	1884-1978	相撲の節(すまいのせち)	1912 年頃	絹本着色	当館蔵
伊藤 彬	1940-	帰山	1988 年	墨、木炭、金泥、 岩絵具・麻紙	当館蔵
今村 紫紅	1880-1916	瀧	1915 年	紙本墨画	当館蔵
上村 松園	1875-1949	享保美人夕暮之図(下図)	1908 年	紙本着色	個人蔵
岸田 劉生	1891-1929	永日小品	1926 年	紙本着色	当館蔵
國領 経郎	1919-1999	海景	1968 年	油彩・キャンバス	当館蔵
國領 経郎	1919-1999	寂夏	1983 年	油彩・キャンバス	当館蔵
高田 力蔵	1900-1992	朝霧のシテ(パリ)	1966 年	油彩・キャンバス	当館蔵
鳥海 青児	1902-1972	メキシコの西瓜(メキシコ風の西瓜)	1961 年	油彩・キャンバス	当館蔵
鳥海 青児	1902-1972	果汁を吸うマヤ人	1964 年	油彩・キャンバス	当館蔵
椿 貞雄	1896-1957	鶴沼風景	1921 年	油彩・キャンバス	当館蔵
中村 琢二	1897-1988	奥大井	1983 年	油彩・キャンバス	当館蔵
中村 貞以	1900-1982	蟹		絹本着色	当館蔵
鍋井 克之	1888-1969	琵琶湖のヨット	1950 年	油彩・キャンバス	当館蔵
松本 節	1915-1944	庭	1930 年頃	油彩・キャンバス	当館蔵
松本 節	1915-1944	雛芥子	1930 年頃	油彩・キャンバス	当館蔵
松本 節	1915-1944	ひまわりと雲	1937 年	油彩・キャンバス	当館蔵
松本 節	1915-1944	由比ヶ浜	1938 年	油彩・キャンバス	当館蔵
松本 節	1915-1944	つた繁る頃	1933 年	油彩・キャンバス	当館蔵

松本 節	1915-1944	廃苑の夏	1934 年	油彩・キャンバス	当館蔵
松本 節	1915-1944	温室	1931 年	油彩・キャンバス	当館蔵
三宅 克己	1874-1954	郊外 戸山原	1911-19 年	水彩・紙	当館寄託
安田 鞆彦	1884-1978	新蔬		紙本着色	当館蔵
山本 鼎	1882-1946	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936 年	油彩・キャンバス	当館蔵
*印の作品については、下記のとおり展示替えをしました。					
○展示期間 前期:6 月 3 日(土)~7 月 2 日(日) 後期:7 月 4 日(火)~7 月 30 日(日)					
鈴木清方《七夕》	前期:右隻、後期:左隻				
酒井抱一《乞巧奠図》	後期のみ。前期は複製品を展示。				

特集展3 平塚市美術館 所蔵名品展

会 期 2006 年 8 月 1 日(火)~2006 年 10 月 9 日(月・祝) 開催日数 61 日間

主 催 平塚市美術館

観覧料 一般 200 円(160 円)/大高生 100 円(80 円) ※かっこ内は団体料金・小中学生無料・第 2、4 土曜日高校無料

担当者 郡司亜也子(当館学芸員)

入場者 10,657 人

【企画趣旨】

湘南地域は温暖な気候と整備された交通網によって、明治時代後期には東京に住む人々の別荘地や療養地として注目されました。洋画家黒田清輝は 1894(明治 27)年鎌倉の別荘に移り、1896(明治 29)年には大磯、1898(明治 31)年には逗子に滞在し、その周囲には東京美術学校の関係者が集いました。1917(大正 6)年には岸田劉生、1919(大正 8)年には萬鐵五郎が療養のため移住。劉生は関東大震災で京都に移住するまでの 6 年半、鵠沼で《麗子像》を描くなど充実した時期を過ごしました。萬は茅ヶ崎の自然と風土のなかで健康を取り戻し、没するまでの 8 年間、構造体としての人物表現を試みたり、南画を手がけるなど多彩な活動をしました。彼らの周りには椿貞雄、鳥海青児、原精一、森田勝らが集まりました。また 1914(大正 3)年、安田鞆彦が療養のためもあって大磯に移りそこで典雅な作風を示すなど、大正時代には原三溪や下村観山を慕う日本美術院系の日本画家も湘南に集いました。戦後は山本丘人や工藤甲人ら創画会の画家も静かな制作環境を求め移り住みました。

当館ではこうした湘南地域にかかわりのある作家の作品を中心に日本の近現代の作品を収集してまいりました。この展覧会では、今年当館が開館 15 周年を迎えたのを機会に、現在約 1,700 件 11,000 点を数える所蔵作品からとくに優れた作品を選びすぎり、絵画、写真、版画、素描からあわせて 38 点を展示しました。



椿貞雄 菊子坐像

■関連事業

●団体向けレクチャー(計2回、6日間 参加者総数約 30 人)

○9 月 5 日(火) 彩の会

○10 月 5 日(木) 平塚市小学校教頭会

特集展 4 内田あぐり展 この世でいちばん美しい場所、あるいは一

会 期 2006 年 10 月 14 日(木)～2006 年 12 月 3 日(日)／開催日数 44 日間

主催他 平塚市美術館／日本経済新聞社

観覧料 一般 200 円(160 円)／大高生 100 円(80 円) ※かつこ内は団体料金・小中学生無料・第 2、4 土曜日高校生無料

担当者 土方明司(当館学芸担当長)

入場者 14,790 人

【企画趣旨】

現代日本画の世界で今、最も注目を集めている日本画家、内田あぐりの初の回顧展です。

内田あぐりは、1949 年東京生まれ。武蔵野美術大学大学院修了。在学中から創画会に出品、はやくからその実力を認められ、75 年、87 年、97 年創画会賞を受賞します。93 年からは文化庁在外研修員として渡仏。また、2003-2004 年、武蔵野美術大学在外研究員として渡米しました。この間、1993 年、山種美術館賞展で大賞を受賞、また、2002 年、第 1 回東山魁夷記念 日経日本画大賞受賞などで、現代日本画界を代表する画家のひとりとして知られるようになります。初期から一貫して人物像に取り組み、東洋、ときには西洋の古今の美術を吸収、換骨奪胎し、新たな人物表現の地平を開拓しています。その技法は伝統的な日本画の画材を基礎としながら、コラージュ(貼り付け)、スクラッチング(削り取り)等の斬新な手法を駆使し、日本画というジャンルの可能性を押し広げるものとなっています。

この展覧会は内田あぐりの公立美術館初の回顧展として、過去の代表作から新作を含めた 13 点と、普段みる機会が少ないドローイング約 40 点により、その豊かな作品世界を紹介しました。



内田あぐり展チラシ

■関連印刷物

- 図 録:『内田あぐり この世でいちばん美しい場所、あるいは—』
- 構 成:テキスト:メールインタビュー「内田あぐり×草薙奈津子」 論文「内田あぐり—混沌と浄化—」土方明司
- 仕 様:図版 22 点/76 頁/26.3×19.2cm
- 資 料:年譜/文献目録/作品目録
- 制作等:求龍堂 発行 平塚市美術館/日本経済新聞社
- 価 格:1500 円(税込み)※売切れ

■関連事業

1●作家によるギャラリー・トーク

- 講 師:内田あぐり
- 聞き手:土方明司(当館学芸担当長)
- 日時等:11 月 3 日(金・祝) 14:00~15:00、ミュージアム・ホールにて開催。
- 参加者:約 80 人(参加費無料)

2●作家との対談

- 対談者:内田あぐり×窪島誠一郎(信濃デッサン館、無言館館主)
- 日時等:11 月 25 日(土) 14:00~15:30 ミュージアム・ホールにて開催
- 参加者:約 180 人

■紹介記事・番組等

- 11 月 12 日(日) 池川徹雄「山本丘人展 内田あぐり展 「日本画」の在り方探る」新かながわ新聞
- 11 月 16 日(木) 田中三蔵「内田あぐり展 ひたむきな「身体」追究」朝日新聞
- 11 月 22 日(木) 宝玉正彦「生気吹き込み宿る肉体性 内田あぐり展」日本経済新聞
- 12 月 1 日(金) 藤島俊会「かながわの美術展評 内田あぐり—この世でいちばん美しい場所、あるいは—」